

令和7年度

運 営 に 関 す る 計 画

(最終評価)

大阪市立堀川小学校

令和8年2月

大阪市立堀川小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

現状と課題

本校はこれまでに、大阪市教育振興基本計画の2つの最重要目標のもと、14の取組を中心にして学校運営を進めてきた。目標設定に対し、学校全体で詳細な振り返りや評価を行い、児童や学校の実態に合わせた取組内容へと更新が図られ、常に目標を上回る成果を上げている。例を挙げると、「いろいろな場面であいさつをしている」児童は90%、「認知したいじめの解消率」は100%、「マーチングに取り組むことで得たものがある」と答えた6年生は98%、「学校生活のきまりやルールは大切だと思う」の肯定的回答は97%、また、令和3年度全国学力学習状況調査の平均正答率の対全国比は全国平均を1としたとき、国語1.18算数1.15であり、全国平均を大きく上回っている。

しかしながら、学校を取り巻く状況は近年大きく変化している。新型コロナウイルス感染症の拡大による子どもたちの活動の制限、児童数の急増と校舎建設により過渡期にある校内環境、社会と学校のICT化と情報化社会の中での子どもの生活の変化、等により、本校児童にも多くの課題が浮上している。中でも、不登校・配慮を要する児童の急増、体を動かす時間と場所・機会の確保は最も大きな現在の課題である。さらに、令和4年度からの「大阪市教育振興計基本計画」に挙げられる「総合的読解力育成」について、本校としての取り組みを形作っていくこともこれからの課題となる。

令和4年度からの4年間、大阪市の掲げる基本理念の実現をめざし、3つの最重要目標を拠りどころとしながら、堀川小学校としての取り組みを具現化し実践していくために、以下のように目標を定める。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合80%以上を4年間維持する。
- 年度末の校内調査における不登校児童の在籍比率を、各年度とも現在より低い水準で維持する。
- いろいろな場面でのあいさつができる子どもを育てる。児童アンケートの「いろいろな場面であいさつをしている」の設問に対する肯定的回答の割合80%以上を維持する。
- 校内の美化を計画的に推進し美しい学校を作る。児童アンケートの「心をこめて清掃している」の設問に対する肯定的回答の割合が令和7年度末に85%以上になるようにする。
- 児童が、自分自身を振り返り、見通しを持ち意欲を持って成長できるよう取り組みを進める。中学校との連携を年間に4回以上行い不安なく進学できるようにする。また、キャリアパスポートを大人との関わりを持ちながら作成し確実に整理・蓄積する。
- インクルーシブ教育に関する研修を進める。医療的ケアや様々な障がいおよび児童の特性や傾向・合理的配慮についての理解を深め実践する。全教職員が参加する研修会を年間2回行い、その他の研修会についても年間計画に位置付ける。
- 学校の特色の一つとして、伝統あるマーチングを継続し、保護者・地域住民に披露する場を工夫する。児童・保護者への事後アンケート「マーチングに取り組むことで得たものがある」の設問に対する肯定的回答の割合80%以上を4年間維持する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 文理融合的な内容を含む「総合的読解力育成」について、つきたい力やそれにつながる学習方法への理解を深め、令和7年度までに本校での取り組みの形を確立する。また、読解力向上のため、文意を理解する力を体系的に養う授業モデルを実践する。

- あらゆる教科において、思考力判断力表現力を育成するため言葉による交流活動を進める。小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合35%以上を4年間維持する。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の学習は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を各年度とも80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全体比を同一母集団において経年的に比較し前年度からの向上を図るほか、市平均を1としたとき1.1以上維持する。
- 体を動かす時間と場所・機会を確保し、小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を令和7年度末に70%以上にする。
- 規則正しい生活を実践する指導を行い健康への意識を高める。それにより学校生活や学習に意欲をもって取り組み、友だちと関わり高め合う子どもを育てる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ICTを活用した学習と児童の実態把握の取り組みを定着させる。校内調査「日々の授業の中で学習者端末を活用して学習をしている」の項目について「ほぼ毎日」の回答を90%以上にする。また、実態把握のためのICT活用について持続可能な方法を確立し定着させる。
- 勤務時間の軽減のため、ICT活用により保護者への連絡・調査回答等の業務を効率化し、学校行事の精選・取り組み方の見直しを図る。
- 校内研修計画について、研修の行い方および研修への参加体制について改善を行う。教職員アンケートで「校内研修が充実していたと思うか」の肯定的回答を各年度とも80%以上にする。
- 図書室および校内の読書環境を整える。図書室移設に伴い蔵書整備を計画的に行うほか、校内読書スペースの整備を4年間で完結させる。
- 分かりやすい情報発信・適切な情報の公開に努め、保護者アンケートの「学校は、家庭・地域との連携をとっているか」の肯定的回答を各年度とも70%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%（R6年度86%）以上にする。
 - ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%（R6年度79%）以上にする。
 - ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍率比を前年度（1.1%）より減少させる。
- ① いじめアンケートの効果的な時期を鑑みて実施し、実態把握に努める。さらに学級内での児童の言動や様子を観察し、いじめを見逃さない体制を徹底する。学力経年調査の「学校に行くのが楽しいと思いますか」の設問に対する回答で「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」の割合を85%にする。
 - ② 校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。
 - ③ 「学校のきまり」を守って生活できるように取り組む。いろいろな場面でのあいさつができる児童を育てる。児童アンケートの「いろいろな場面であいさつをしている。」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上にする。
 - ④ 校内の美化を計画的に推進し、美しい学校をつくる。児童アンケートの「心をこめて清掃している」の設問に対する肯定的回答の割合が80%以上になるようにする。
 - ⑤ キャリアパスポートの実施により、中学に進学する不安等について把握し、中学校と連携して不安を解消出来る取り組みを進める。さらに、「将来の夢や目標を持っていますか。」という児童アンケートに対して肯定的に回答する児童の割合を80パーセント以上にする。
 - ⑥ 医療的ケアが必要な児童の在籍に伴い、校内の支援体制を整える。また、校内外の研修に積極的に参加し、全職員が共通理解し実践する。研修会や共通理解の場の持ち方を明確化し、児童の特性や傾向・合理的配慮のための支援の方法などについて共有を図る。
 - ⑦ 学校の特色の一つとして、伝統あるマーチングを継続し、保護者・地域住民に披露する場を工夫する。事後アンケートで、児童・保護者とも「マーチングに取り組むことで（子どもたちが）得たものがある」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上になるようにする。また、マーチングを鑑賞する児童の意識が高まるよう工夫することで、本校の伝統が受け継がれていくようにする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を44%（R6年度43.7%）以上にする。
 - ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を71%（R6年度70%）以上にする。
- ① 日々の教育活動全般において、多読・速読など、言語活動の充実を図っていく。また、子どもの世界を広げ、思考を深めるため、文理融合的な内容を含む、「総合的読解力育成カリキュラム」を開発し、総合読解力育成のための授業を実施して、思考力・判断力・表現力の育成に取り組む。
 - ② 小学校学力経年調査・校内アンケートの「友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広めたりすることができている。」の項目に肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。
 - ③ 学年が上がるにつれて、英語に対する苦手意識を持つ児童が増えてきている。授業づくりを工夫し、小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「外国語（英語）の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

- ④ 小学校学力経年調査の平均正答率70%以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。
- ⑤ 本校児童の体力・運動能力に合った体育科授業と体育的な取り組みを通して運動に親しみ体を動かすことが好きな児童の割合を増やす。小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対する肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。
- ⑥ 規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはん)の保健指導・食育の両面で継続的に指導し、保護者へも啓発していく。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準(※)を満たす教職員の割合を66%(R6年度65%)以上にする。

※1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること

1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。)
- ② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。
- ③ ゆとりの日の設定を定期的に行う。学校閉庁日については夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間中は2日間以上行う。
- ④ 研修計画を立て、教職員アンケートで「校内研修が充実していたと思うか。」の項目について、肯定的に答える職員の割合を80%以上にする。
- ⑤ 図書室の移設にも対応しながら読書環境の整備に努め、蔵書の整備を積極的に行う。児童アンケートの「読書が好き」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上にする。
- ⑥ 学校アンケートの「学校は家庭・地域との連携をとっているか。」の項目について肯定的に答える保護者の割

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】 【未来を切り拓く学力・体力の向上】 【学びを支える教育環境の充実】

【安全・安心な教育】では、いじめアンケートや「心の天気」を活用し、児童の気持ちの変化に気づきやすくなったことで早めの支援が可能になった。不登校児童の割合も前年度より低く保つことができた。あいさつ運動、美化活動、キャリアパスポートなどの取り組みも継続し、児童の生活面の成長にもつながった。また、医療的ケアや特別支援に関する研修を重ね、教職員の理解をそろえることができた。マーチングの活動も児童・保護者から高い評価が得られ、学校の伝統を大切にする姿が育っている。

【学力・体力の向上】では、総合的読解力育成カリキュラムや具体物・実験を取り入れた授業により、子どもが主体的に学ぶ場面が増えた。授業研究も定着し、育てたい力を意識した授業づくりが進んだ。外国語では楽しさを重視した授業改善により、「英語が好き」という児童が増えた。体育では年間計画を生かし、運動に前向きに取り組む姿が見られた。生活習慣の指導も継続し、健康意識の向上につながった。

【教育環境の充実】では、学習者用端末の活用が日常的になり、調べ学習や発表活動が広がった。働き方改革では会議削減やゆとりの日の設定などにより、一定の効率化が進んだ。校内研修は全教職員が参加しやすい体制を整えたことで質が高まった。読書環境の整備や地域との交流も継続され、児童の学習や生活を支える環境づくりが進んだ。

一方で、あいさつの習慣化、清掃の取り組み、教員のICTスキル差、業務量の偏りなど改善すべき点も明らかになった。これらを次年度の課題とし、児童一人ひとりの成長をより支えられる学校づくりを続けていきたい。

大阪市立堀川小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87% (R6年度86%) 以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80% (R6年度79%) 以上にする。 ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍率比を前年度(1.1%)より減少させる。 <p>① いじめアンケートの効果的な時期を鑑みて実施し、実態把握に努める。さらに学級内での児童の言動や様子を観察し、いじめを見逃さない体制を徹底する。学力経年調査の「学校に行くのが楽しいと思いますか」の設問に対する回答で「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」の割合を85%にする。</p> <p>② 校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p> <p>③ いろいろな場面でのあいさつができる児童を育てる。児童アンケートの「いろいろな場面であいさつをしている。」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上にする。</p> <p>④ 校内の美化を計画的に推進し、美しい学校をつくる。児童アンケートの「心をこめて清掃している」の設問に対する肯定的回答の割合が80%以上になるようにする。</p> <p>⑤ キャリアパスポートの実施により、中学に進学する不安等について把握し、中学校と連携して不安を解消出来る取り組みを進める。校区内の新設「桜和高校」とも連携を図る。さらに、「将来の夢や目標を持っていますか。」という児童アンケートに対して肯定的に回答する児童の割合を80パーセント以上にする。</p> <p>⑥ 医療的ケアが必要な児童の在籍に伴い、校内の支援体制を整える。また、校内外の研修に積極的に参加し、全職員が共通理解し実践する。研修会や共通理解の場の持ち方を明確化し、児童の特性や傾向・合理的配慮のための支援の方法などについて共有を図る。</p> <p>⑦ 学校の特色の一つとして、伝統あるマーチングを継続し、保護者・地域住民に披露する場を工夫する。事後アンケートで、児童・保護者とも「マーチングに取り組むことで(子どもたちが)得たものがある」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上になるようにする。また、マーチングを鑑賞する児童の意識が高まるよう工夫することで、本校の伝統が受け継がれていくようにする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1. 安全・安心な教育環境の実現・いじめへの対応】</p> <p>いじめアンケートを実施し、実態を正確に把握する。また、実施後の教育相談の充実を図るとともに、学級の実態に応じて「心の天気」の入力を定着させる。さらに「心の天気」、「相談機能」により、日々の児童の変容を見逃さないようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>いじめアンケートを毎学期（年3回）実施し、実態に応じた指導を行う。また、「心の天気」、「相談機能」を見て、気になる児童には指導者は丁寧に聞き取りを行い、いじめの対応を100%にする。</p>	B
<p>取組内容②【1. 安全・安心な教育環境の実現・不登校への対応】</p> <p>職員全体で不登校傾向にある児童の共通理解を図る。また、生活指導部会やわかたけ担任会を中心に学校全体で児童の支援ができる体制を整える。気になる児童のことはいいとこみつけに詳細に記入しておき、情報の共有と引継ぎが確実に行われるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>定期的に生活指導部会をもち、児童の実態を共通理解する。令和7年度末の校内調査で不登校の児童の割合を1%以下にする。</p>	B
<p>取組内容③【1. 安全・安心な教育環境の実現・あいさつ】</p> <p>代表委員会を中心にあいさつ運動やポスターなどによる啓発を行い、児童があいさつの意味や重要性を感じられるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動を学期に1回行う。 ・生活目標に定期的に取り上げる。 	B
<p>取組内容④【1. 安全・安心な教育環境の実現・校内美化】</p> <p>清掃道具の整備を行い、心を込めた清掃活動ができるようにすることで、美しい学校をつくる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境委員会が各教室へ行き、正しく清掃できているか確認する。出来ていないところを周知し意識して清掃に取り組めるようにする。 ・清掃活動の呼びかけ「ピカピカデー」を月に1回程度設定し、校内放送で全児童に周知することで、学校をきれいに使うことを意識し、校内を美しく保てるようにする。 ・清掃道具を整理整頓し、必要な清掃用具を充実させる。 	B
<p>取組内容⑤【2. 豊かな心の育成・キャリア教育】</p> <p>小中連絡、養護教諭の交流、わかたけ学級の連携、中学校教諭による授業等、積極的に情報を共有する機会を持つ。また、キャリアパスポートの実施により、児童が将来の目標を持てるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の目標を持てるように、校外学習や外部講師を招いた学習の後に行う振り返りで、将来のことについて触れることで、児童アンケートでの「将来の夢や目標を持っている」の肯定的回答の割合を80%以上にする。 	B

<p>取組内容⑥【2. 豊かな心の育成・インクルーシブ教育】</p> <p>医療的ケアが必要な児童のための校内支援体制を整える。また、発達障がい等の配慮を要する児童の特性や合理的配慮のための支援の方法について共有する。</p>	A
<p>指標</p> <p>医療的ケアの研修を年に3回行う。また、特別支援教育や通級に関する研修を年に2回実施する。医療的ケアが必要な児童や配慮を要する児童の状況を共通理解し、必要な支援をするために通常学級担任・特別支援学級担任・通級担任とで連携を深める。</p>	
<p>取組内容⑦【2. 豊かな心の育成・マーチング】</p> <p>学校の特色の一つとして伝統あるマーチングに取り組み、校内・保護者・地域に披露する場を工夫する。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テーマ・練習の進捗状況を校内・保護者・地域に対して学期に1回以上発信し、取り組みの目的を共有する。 ○活動内容・練習方法・披露する場所を工夫する。 ○6年生では、学年全体で取り組むことの意義を常に考えさせ、取り組みを通して、友だち同士が互いに支えあう共生の心と自己肯定感を育むようにする。 ○1～5年生では、マーチングの鑑賞を通して自身でも取り組んでみたいという気持ちにつなげ、伝統を受け継いでいく気持ちを醸成していく。 ○児童アンケートで1から5年生は、「マーチングを見て、自分もやってみたいと思う。」6年生は「マーチングに取り組んで、自分にとって得たものがあると思う。」の肯定的回答の割合を80%以上にする。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容1】全学年を通して、いじめアンケートの結果を基に児童の状況を丁寧に把握し、迅速に対応し、解決できた。情報を共有し、連携のとれる体制が機能していた。「心の天気」や相談機能の活用により、小さな心情変化に気づきやすくなり、早期対応につながった。学年内・学年間の情報共有も綿密にでき、問題の未然防止につながった。児童が安心して相談できる環境づくりも進んでおり、学校全体として安全な教育環境が整ってきた。</p> <p>【取組内容2】全学年で生活指導部会や学年会で不登校傾向児童の情報共有が行われ、対応を複数で検討する体制が形成されている。個別支援・家庭連携が進んだ学年もあり、一定の成果が見られた。年度末の校内調査の不登校の児童の割合も1%となった。</p> <p>【取組内容3】全学年であいさつ運動を通してあいさつへの意識が高まり、「すすんであいさつをしている」という児童アンケートの肯定的回答が増加した学年が多かった。継続的な取り組みにより、学級・学校全体としてあいさつしようとする雰囲気ができている。一方学年によっては、あいさつ運動後に、すすんであいさつする児童の割合が低下しているように感じるので、継続性と主体性の課題も見られる。</p> <p>【取組内容4】環境委員会やピカピカデーの取り組みにより、清掃活動への意識は一定程度高まり、清掃の質が向上した学年もみられた。しかし、日常的な掃除の習慣や仕方については、まだ改善点も残っているため、継続的な意識づけを学級内で行うことが必要である。</p> <p>【取組内容5】全学年を通して、将来の夢や目標を持っている児童の割合は多いが、学年が上がるにつれて具体的な夢を描けない児童が一定数存在するという結果が児童アンケートより見られた。1・2・3年生では、漠然とした夢を持つ児童が多く、将来像が描きにくい児童も目立っていたため、発達段階に応じた具体的な支援が必要である。</p>	

【取組内容6】医療的ケア研修を3回行い、eラーニング研修で児童の特性理解を進めることで、全学年において医療的ケアや配慮事項への理解が進み、緊急時対応の共通理解も深まっている。

【取組内容7】全学年でマーチングへの関心が高く、演奏技術の向上や鑑賞を通じた意欲形成が見られた。特に6年生は伝統の継承意識が高まり、下級生にも良い影響を与えている。一方、学年によって負担感の差があり、系統指導が大切である。

次年度への改善点

【取組内容1】「心の天気」の形骸化を防ぎ、本音が入力でき、児童の実態に合うように活用していく必要がある。相談機能の活用精度を高め、入力と実際の様子との差を見極める観察と情報共有体制の強化が求められる。また、見えにくいじめに対しても多面的に対応していくことが必要である。

【取組内容2】支援困難な児童や家庭に対して、どのような対応ができるのかを考えていく必要がある。また、学校全体での支援強化、情報共有の迅速化、家庭や関係機関との連携強化をすすめていく必要がある。

【取組内容3】あいさつ運動後の継続性を高めるため、学級・学年での振り返りの習慣化、日常場面での声かけなど、実践を継続的に支える仕組みづくりが必要である。あいさつをする習慣が身につくように、教員があいさつの重要性を理解し、積極的に見本となる姿を見せていく必要がある。また、来校者へのあいさつについても指導することで、誰にでも当たり前にあいさつをする姿勢を育てたい。

【取組内容4】今年度の取り組みも継続しつつ、正しい清掃方法や用具の取り扱いについて支援や指導を重点的に行っていく。また、生活の中での美化意識を持てるような取り組みが必要である。

【取組内容5】児童が自分の興味や得意を自覚し、将来像を具体化できるように自分を振り返る時間を充実させる必要がある。また高学年では、言語化しにくい児童への支援を行ったり、特別支援学級では視覚教材の活用が有効を行ったりする。

【取組内容6】医療的ケア児への対応だけでなく、特別支援学級においては支援対象が多い、個々の特性把握が難しい、きめ細かな対応が難しいという状況もある。全体として、研修や連携を継続しつつ、教職員全体で児童理解を深める体制づくりが引き続き求められる。

【取組内容7】系統的指導と児童・教員の負担軽減が必要である。そこで、次年度の取り組みとして以下の点を共通理解し、学校全体で取り組みたい。

- ①音楽科の学習では、様々な楽器に触れ、器楽合奏する機会を低学年からもち、リズム譜がよめるようにする。特に鍵盤ハーモニカやリコーダーは、指使いやタンギングの技能を定着させる。
- ②年度初めの全校朝会で行進の指導を行い、左足から歩くことや列をそろえる意識を高める。
- ③講師による指導（全10回）を1学期5回・2学期5回に分散し、熱中症のリスクが高まる時期の練習回数を減らす。なお、1回目の指導は4月上旬にオーディションを行い、より専門性の高い講師が実施することで、適性をみて公平に楽器の担当を決める。
- ④運動場にラインは引かず、各ポイントに色分けしたポイントを打ち込んで実施する。
- ⑤演目構成は全員が演奏する曲数を3曲とし、退場時には演奏せずに動く。なお、4・5年生の間に3曲の練習は終えておく。

大阪市立堀川小学校令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を44%（R6年度43.7%）以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を71%（R6年度70%）以上にする。 <p>① 日々の教育活動全般において、多読・速読など、言語活動の充実を図っていく。また、子どもの世界を広げ、思考を深めるため、文理融合的な内容を含む、「総合的読解力育成カリキュラム」を開発し、総合読解力育成のための授業を実施して、思考力・判断力・表現力の育成に取り組む。</p> <p>② 小学校学力経年調査・校内アンケートの「友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広めたりすることができている。」の項目に肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。</p> <p>③ 学年が上がるにつれて、英語に対する苦手意識を持つ児童が増えてきている。授業づくりを工夫し、小学校学力経年調査・校内児童アンケートにおける「外国語（英語）の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>④ 小学校学力経年調査の平均正答率70%以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。</p> <p>⑤ 本校児童の体力・運動能力に合った体育科授業と体育的な取り組みを通して運動に親しみ体を動かすことが好きな児童の割合を増やす。小学校学力経年調査・児童アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対しての肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。</p> <p>⑥ 規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）の保健指導・食育の両面で継続的に指導し、保護者へも啓発していく。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【4. 誰一人取り残さない学力の向上・言語活動・理数教育の充実】</p> <p>学力の向上に向けた言語活動の充実として、総合的読解力育成カリキュラムから年間1単元を重点単元に設定して、言語能力（総合的読解力）を育成する。</p> <p>理数教育の充実のため、ハンズオンを大切にされた教育を推進する。算数科では実物を活用した学び、理科では実験・観察を取り入れた学びを充実させる。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的読解力育成カリキュラムから年間1単元を重点単元に設定し、成果物を作成し学んだことを表現する活動を行う。 ・算数科では、実物を活用した学びを年間1単元設定する。 ・理科では、実験・観察を取り入れた学びを年間1単元設定する。 	

<p>取組内容②【4. 誰一人取り残さない学力の向上・主体的・対話的で深い学び】</p> <p>教科・領域の指導において、子どもにどのような力をつけさせたいのかを明確にした指導計画・実践を目指し、全学年で授業研究に取り組む。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業研究（一人一授業含む）において、“単元を通して、子どもにどのような力をつけさせたいか”という視点を持ち、授業を実施する。また、授業研究（授業）後に、参観者のコメントシートをやり取りすることで、授業力を高める。 ・これまでの体育科の研究を活かし、授業前に、学年で、子どもたちの視点に基づいた授業展開を考えるようにする。また、年間指導計画をもとに、“（教師が）教えること”と“（子どもたちに）気づかせること”を明確にした授業を学年一人以上行う。 ・児童アンケートにおける「話し合い活動」に対する肯定的な回答（児童）を昨年度よりも1ポイント増加させる。 	A
<p>取組内容③【4. 誰一人取り残さない学力の向上・英語教育の強化】</p> <p>外国語の授業づくりをメンター研修中心に行い、児童が授業の中で楽しみながら学べる環境を作る。</p>	
<p>指標</p> <p>外国語の授業の進め方をテーマにした研修を、メンター研修を中心に2回以上実施する学校アンケートの「英語が好きだ」「英語の学習が楽しい」に対して肯定的な回答を85%以上にする。</p>	A
<p>取組内容④【4. 誰一人取り残さない学力の向上・全市共通テストの実施と分析・活用】</p> <p>小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率を向上させるための取り組みを実施する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の学力経年調査の結果を踏まえ、平均正答率が低かった単元を把握し、重点的に指導する。また、それらの単元を学校全体で共有することで、児童がつまずきがちなポイントを踏まえた系統的な指導に生かす。 	B
<p>取組内容⑤【5. 健やかな体の育成・体力・運動能力向上のための取組の推進】</p> <p>本校児童の体力・運動能力に合った体育的な取り組みを通して、体を動かすことが楽しいと感じる児童を育てる。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの子どもも体を動かすことに充実感(できた、やってみよう)がもてるような体育科の授業を展開するために、年間計画の有効活用と児童の実態にあった場と人数の工夫をする。 ・運動委員会を中心に学期に1回程度、体育的な取り組みをする。 	A
<p>取組内容⑥【5. 健やかな体の育成・体力・健康教育・食育の推進】</p> <p>目を大切にする生活習慣を身につける。</p>	
<p>指標</p> <p>保健指導、栄養指導、学級指導、健康委員会や給食委員会の活動（テレビ集会・放送・ポスターなど）など様々な機会です「目を大切にする生活習慣」（明るさ、姿勢、休養、規則正しい生活、栄養バランスの良い食事、外遊びや運動など）を周知させ、意識させるようにする。アンケートでの肯定的回答の割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容1】総合的育成カリキュラムを扱う学年については、国語科などと教科を横断しながら成果物を作成することができた。また、算数科、理科などについては具体物・実物を多く取り入れることで児童が主体的に学習に取り組む姿が見られた。

【取組内容2】全学年で育てたい力を明確にした授業づくりと振り返りが定着し、話し合い活動を中心とした主体的・対話的な学びが深まってきている。年間計画通り、授業研究を進めることができており、特に体育科では、「教えること」「気づかせること」を明確にした授業計画と実践が広がり、授業後の共有、記録を次年度活用に向けての蓄積をすることができた。

【取組内容3】1, 2年はモジュール、3, 4年は外国語活動、5, 6年は英語の授業を中心に学習活動を進め、児童が「好きだ」「楽しい」の目標数値を達成することができた。児童が楽しく学べる環境の作り方の教職員での共有の仕方が課題に残る。

【取組内容4】全学年が年度初めに重点的に取り組む単元を決めて、取り組んだ。

【取組内容5】全学年が年間指導計画に基づいて計画的に学習を進められたことや体育授業のデータを活用して学年や学級の実態にあった指導の工夫やワークシートの活用ができたことにより子どもたちが体育に対して前向きで意欲的に捉えている。

【取組内容6】保健指導、栄養指導、学級指導、健康委員会や給食委員会の活動など、様々な機会に「目を大切にすること生活習慣」を周知させ、意識させる取り組みを行ってきた。その結果、目標数値を上回ることができた。

次年度への改善点

【取組内容1】全てを重点的に行うことは難しいため、各教科引き続き年間1単元を重点単元に設定する。

【取組内容2】今年度の研究成果（指導案、ワークシート、板書例、言葉集など）を組織的に保存し、次年度の授業設計に生かす。

来年度の指標を「話し合い活動に対する肯定的回答を85%以上にする」に変更する。

【取組内容3】メンター研修は引き続き実施し、外国語活動や英語の授業を教職員で共有できるように、年度の早い段階で専科を中心に公開する。また、楽しい授業ができる環境を整えるために、英語部で教材作りや、共有ができるように取り組む。

【取組内容4】余剰時数のある学年とそうではない学年で重点的に取り組める時間に差があった。各教科の時間を有効に活用し、重点的に取り組める方法を各学年で検討する。

【取組内容5】バランスの取れた体育授業と一人あたりの運動量の確保をするために今後はさらなる年間計画の見直しとデータをため込んで誰もが指導できるような環境を整えていく。

【取組内容6】目標数値は上回ったが、「目を大切にすること生活習慣」のうち、栄養バランスの良い食事について給食の残食の多さが気になる。姿勢についても継続指導が必要である。そこで、来年度より、目に限定するのではなく、年度目標を「基本的な生活習慣（睡眠、食事、清潔）を意識していますか」の項目に肯定的に回答する児童の割合を80%以上にすることを目標に、取組内容を「基本的な生活習慣を身につける」に変更し、取り組んでいく。指標は、「学期に1回、保健指導・栄養指導をする」「年に1回、学校保健委員会を実施する」「学期に1回残食しらべをする」とすることを検討している。

大阪市立堀川小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準(※)を満たす教職員の割合を66%(R6年度65%)以上にする。 ※1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること <p>①授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。)</p> <p>③ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。</p> <p>④ ゆとりの日の設定を定期的に行う。学校閉庁日については、夏季休業期間中3日以上、冬季休業期間中2日間以上行う。</p> <p>④ 研修計画を立て、令和5年度末の教職員のアンケートで「校内研修が充実していたと思うか。」の項目について、肯定的に答える職員の割合を80%以上にする。</p> <p>⑤ 読書環境の整備に努め、蔵書の整備を積極的に行う。児童アンケートの「読書が好き」の設問に対する肯定的回答の割合を80%以上にする。</p> <p>⑦ 学校アンケートの「学校は家庭・地域との連携をとっているか。」の項目について肯定的に答える保護者の割合を70%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6.教育DXの推進・ICTを活用した教育の推進】</p> <p>スマートスクール次世代学校支援事業で導入されている心の天気やいじめアンケートで児童の心の状態や日々の状況を可視化し、児童の理解を深めることができるように学習者端末を活用する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達段階や学習場面等に合わせて、学習者用端末やデジタル教材を有効的に活用する。 ICT機器を活用したプレゼンテーションスキルの向上のために、各教科の中で学習者用端末等を使ったプレゼンテーションをする機会を設定する。 スマートスクール次世代学校支援事業で導入されている心の天気やいじめアンケートで児童の心の状態や日々の状況を可視化できるように、学習者用端末を活用する。 メンターなどで、プチ研修会を開き、ICT機器の活用の方法を広げる。 	A

<p>取組内容②【7. 人材の確保・育成としなやかな組織づくり・働き方改革の推進】</p> <p>教員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができ、子どもたち一人一人に向き合う時間を確保することができる環境づくりに努める。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりの日を定期的に設定し、設定した日には退勤時間を遵守する。 ・ICTを活用して児童・保護者へのアンケートを行い、実務の効率化をはかる。 ・行事や校務、時間外勤務の見直しをはかる。 	
<p>取組内容③【7. 人材の確保・育成としなやかな組織づくり・教員の資質向上・人材の確保】</p> <p>実践的指導力の向上、知識・技能を習得するために積極的に研修に参加する。また、研修等に参加しやすい環境を整える。</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内で資質向上のための年間計画をたて、それに基づき研修に努める。 ・研修に参加しやすい環境を整える。 	
<p>取組内容④【8. 生涯学習の支援・学校図書館の活性化】</p> <p>図書室の整備をはじめ、学級文庫の充実、読書スペースの整備、市立図書館の団体利用などを進め、読書環境の整備に努める。</p>	A
<p>指標</p> <p>読書環境の整備を定期的に点検する。</p> <p>学級文庫の本を学期ごとに交換する。</p> <p>読書ボランティアの活躍の場と交流の場を設定する。</p> <p>図書スペースを有効的に活用することで、読書活動の活性化を図る。</p>	
<p>取組内容⑤【9. 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進・地域学校協議活動の推進】</p> <p>学校だよりやホームページを通して積極的に情報発信を行う。学年でも定期的に児童の様子をホームページに掲載する機会を持つ。また、登下校の見守り活動、読書活動支援、地域との交流行事など、学校・地域・家庭の連携による取り組みを推進していく。</p>	B
<p>指標</p> <p>「わたしたちのほりかわ」を活用し、地域や学校について学ぶ機会を設定する。ホームページに月ごとの発信回数を決め、計画的に児童の様子を知らせる。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容1】全体としてICT活用が進み、学習者用端末を日常的に扱う習慣が定着し、探究・表現活動も広がった。心の天気などの活用で児童理解が深まった。一方、機器トラブル対応やスキル差の課題が引き続きある。</p> <p>【取組内容2】全体として、退勤時刻意識や会議精選が進み、一定の業務効率化が図られた。一方で学年・個人による負担量の差を感じるため、校務の分担が課題となっている。</p> <p>【取組内容3】教職員の資質向上および実践的指導力の向上を目的として、年間計画にもとづき、著名な講師や経験豊富な講師を招いた多様な研修が計画的に企画・実施されていた。研究授業や師範授業の実施日には、当該学級以外を下校させることで、全教職員が参加できる体制が整えられ、集中して落ち着いた雰囲気の中で研究授業に臨むことができている。その結果、より深い学びにつながっている。また、一人一授業をグループ化して取り組むことで、全教職員が参加しやすい環境づくりがなされていた。</p> <p>【取組内容4】学級文庫の入れ替えや本の増加、読書スペースや図書室等の整備が進み、読書環境が整ってきている。</p>	

【取組内容5】見守り隊やくすくすさん、ふれあい清掃などの地域の方との交流することができた。また、ホームページで学校の様子を発信することができた。そのことによって、感謝の気持ちも育っている

次年度への改善点

【取組内容1】ICTスキルの差を解消とトラブル対応体制の強化し、児童の発達段階に応じた入口（メニューやアプリ）整備が必要。

【取組内容2】校務の分担、ICT・会議等のさらなる効率化が必要である。

【取組内容3】引き続き、計画的に研究や研修を推進し、参加しやすい環境を整える。

【取組内容4】児童の読書意欲向上につながるように、引き続き読書環境の整備に努める。団体貸出利用は学年によって活用に差がある。辞書等の活用と設置場所の検討。

【取組内容5】取組内容と指標にある「ホームページ」について、写真を撮ることが難しくなっているので、来年度も取り組むのか考慮する。また、「わたしたちのほりかわ」を全学年持っていないので、活用するのが難しくなっている。貸し出し用の分を使っていくなど取り組む方法を考えていく必要がある。